高岡市立国吉義務教育学校　学校だより

水よし 人よし 国吉

令和５年度　第９号

発行日：２月２６日

西山丘陵の自然

校　長　久保村　裕

今学期も早いもので、残すところ４週間になりました。９年生にとっては、本日を入れて登校する日が、１４日間になりました。高校受検もあり忙しい日々が続きますが、この１４日間の一日一日をできるだけ充実した日にしてほしいと思います。また、元日に発生した能登半島地震、まだ余震が続いていますが、被災された皆様には、一日も早い復旧・復興をお祈り申し上げます。

今回は、国吉地区のすばらしい西山丘陵の自然について紹介します。私が中学校の理科教員としてスタートしたころ、三千坊山と頭川地区の西山丘陵を高岡市理科実技研修会で散策したことがありました。その時、西山丘陵で観察した植物と化石は、私の理科教員としての探究心をくすぐり、教材研究のきっかけを与えてくれた大切な思い出になっています。

私は、三千坊山を散策するまでは、植物にはそれほど興味がありませんでした。初夏の三千坊山を歩いて感じたのは、まず新緑とスギや落葉樹の木漏れ日（こもれび）の美しさでした。森林浴をしながら歩いていると、樹木の下には、さまざまな野草が自生していました。その中で特に感動したのが、「ギンリョウソウ」と「ササユリ」でした。「ギンリョウソウ」（写真１）は、真っ白で緑色ではない植物です。葉緑体がないため、キノコのなかまのように他から栄養をとって生息しているめずらしい植物でした。その不思議な姿に植物の奥深さを感じました。もう一つは、「ササユリ」（写真２）というユリのなかまです。西広谷地区では大切にされている野草と聞きますが、テッポウユリやスカシユリのような派手さはありませんが、淡いピンク色をした上品な花びらの美しさに魅了されました。この２つの植物との出会いは、私の植物への好奇心を高めてくれるきっかけとなりました。

もう一つは、頭川地区の石灰質砂岩という地層で、ホタテガイやウニ等の貝化石（写真３）に出会ったことです。実技研修会ではホタテガイをたくさん採取させてもらいましたが、指導員の方から、運が良ければ、サメの歯やクジラの骨の化石も見付けることができると聞きました。何か宝物探しのような感覚で、楽しく化石を採取しました。ホタテガイは、今でも海に生息している貝ですが、ホタテガイの化石が見つかるということは、山である西山丘陵の頭川地区が、昔は海であったという証拠になります。海であったところがなぜ山になったのか、元日に発生した能登半島地震でも、能登半島の海岸が隆起（土地が海面に対して高くなる自然現象）して海であったところが陸になったところがありました。この頭川地区でも、大昔、大きな地震が何回もあって海であったところが少しずつ隆起して陸になったと考えられます。また、ホタテガイは、浅く冷たい海に生息する貝であり、現在の富山県には生息していませんが、頭川地区が海であったころは、今よりも寒い気候で浅く冷たい海であったと考えられます。このように、ホタテガイの化石から、昔の地形や気候を推測できることから、自然の驚異に直接触れたような気持ちになりました。それ以来、私は化石にとても興味をもつようになりました。

西山丘陵のすばらしい自然は、国吉の宝物です。本校の西山ウォーク、須加の山の踊りと一緒に本校の児童生徒にもしっかりと受け継いでほしいと願っています

写真１

写真２

写真３